

基本計画策定部会における主な意見

① 第1子出産後の支援の充実等

- ・経済的負担の軽減や仕事と子育ての両立支援も進み、安心して産み育てることができる施策が浸透。本県の課題としては、平均初婚年齢が全国平均並みに上昇しているため、第1子出産後、2人目、3人目を、間を空けずに産んでもらうような支援が大事。
- ・第1子出産後、周囲の支援が受けられないと、子育てを負担に感じ、産後うつリスクが高くなる。核家族化が進む中、第1子出産後の支援が重要。
- ・民間のベビーシッターや家事代行サービスの充実が望まれる。利用の際の支援があればよい。
- ・産後ケアとして、家事代行サービスをもっと充実させてほしい。産後は育児に追われ、難しい手続きがあると利用しにくい。簡単な手続きで利用できるようにして、父子手帳に載せて父親からこういったサービスを利用したらと言ってくれるようになるとうい。
- ・家事代行サービスにお金を使うことに抵抗を感じる人が少なくなっており、核家族化が進み、頼れる肉親がいない人は、お金を出してでも家事代行サービスを使うと思う。ただし、高いと使えない。
- ・産後、一番大事なのはゆっくり眠れること。助産院の産後ケア宿泊サービスは1泊3万円をとらないと採算が取れない。子育て応援券のように、経費を補助してもらえればありがたい。富山県内の潜在助産師を拾い上げ、派遣できるとよい。

② 男性の家事・育児参画及び男性の育児休業取得の促進

- ・男性の家事・育児時間が全国と比べても短い状況にあり、特に子育て世代の共働き率が高い本県では、女性の負担感が大きいため、男性の家事・育児参画を進めなければならぬ。
- ・男性が、育児の大変さを理解し、主体的に家事・育児に携わらないと、2人目3人目が続かない。
- ・特に、産後2か月は、産後うつの発症率（特に初産）や離婚率が高くなるため、この時期の男性の家事・育児参画は大変重要である。
- ・短い期間でも男性の育児休業取得を進めるべき。
(これまで男性が家事・育児に参画してこなかったつけが現在の少子化の原因となっているのでは。苦勞した母親が、戻ってこなくてもよいと娘に言っていると聞く。)
- ・育児ストレスが少ない都道府県ランキングで、女性のワーストが富山県はショックだった。これまでの施策は、女性が育児をしやすいようにするため、つまりワンオペをするための施策になっていたのではないか。今後は、脱ワンオペ育児で、みんなで子育てできる施策が大事であり、そのためにも男性の家事育児参画はとても大事。
- ・男性トイレにベビーチェア等を設置すべき。これまで女性側が育児をする視点で環境が整備されてきたが、男性も育児をする視点に立てば、男性トイレへの設置はごく当たり前。
- ・自分が出産した病院では、退院前に、夫婦で参加する育児教室があり、沐浴やおむつ交換を一緒に習ったことで、その後の夫の育児参加がスムーズだった。このような体験と

父子手帳の配布といった知識面での啓発を一緒に進めることが重要。

- ・男性の育児休業取得は進んでいない。父子手帳は休暇取得のノウハウなどを盛り込んだものになるとよい。

③ 働き方改革・女性活躍の推進

- ・中小企業も、時間短縮という意味での働き方改革は進んできている。そうしないと求人に応募がない。時間外は減ったが、生産性向上が課題。
- ・夫は、中小企業で働いていたが、先般、大企業と合併したことで、定時で帰るのが当たり前になり、子どもと関わる時間が増えた。中小企業の働き方改革を重点的に推進すべき。
- ・妊活中に仕事を辞める女性が多く、妊活をしながら働き続けることができる支援が必要と考える。
- ・女性活躍を推進するためには、育児休業復帰後、女性自身がどう働きたいか、若いうちに考えることが重要。
- ・女性が職場で活躍するには、家事の負担を減らすことが重要。女性も仕事で成果を出す必要がある、そのためには自己啓発の時間も必要。核家族化が進み、子どもや夫、自分が体調不良になったときなど、頼れる人がいない人も増えてきている。仕事と家庭を両立するために、気軽にお願ひできる家事代行サービスが充実することを望む。

④ 若い女性のU I Jターンの促進・ライフプラン教育の充実等

- ・高校卒業者の3/4が、県外大学へ進学しており、県外の大学等へ進学した若者のU I Jターンの促すための取組みが求められる。特に東京へ進学した若者が富山県へ帰らない傾向があるため、東京対策が課題。
- ・郷土愛の育成、エビデンスを踏まえたライフプラン教育が重要。
- ・子どもを産み育てるには適齢期がある。時機を逃さない教育が大事。
- ・親を見て子育てのよい経験、学校や地域等での小さな子供とのふれあいや年代を超えた縦のつながり、14歳の挑戦、立山登山など、富山を出る前の多くの体験が、帰ってくるきっかけとなる。
- ・女子学生が進学できる大学が少ない。
- ・地方の大学定員の増を他の地域と連携して働きかけてはどうか。

⑤ 結婚支援対策の充実

- ・(行政がそこまでやらなければいけないのかと意見がある一方で)、多くを占めていた見合い結婚から恋愛結婚に変わり、自分だけでアプローチし結婚する文化が日本には育っていないため、ある程度の結婚支援は必要。
- ・企業の人事担当者へ、出会いの場がないか、自分は結婚できるのだろうかといった質問や相談が多く寄せられる。企業として結婚支援を考えることは、よい企業であるという企業のPRになると考える。

⑥ 祖父母世代の活躍

- ・ 三世代同居や近居が、共働きを可能としており、祖父母世代がさらに孫育て（及び他孫育て）において力を発揮することが期待される。
- ・ 祖父の立場として、育児・家事に参画することも大事。気づいたときがチャンス。

⑦ 結婚や子育てに関するネガティブなイメージの払拭

- ・ 結婚や子育てがいいな、楽しいなと思える社会となるように、県民一人ひとりが取り組む必要がある。

⑧ 幼児教育・保育の質の向上

- ・ 幼児教育・保育が無償化となるなかで、質の高い教育・保育を行うことがますます重要となる。幼児教育センターの取組みが重要。

⑨ 子育てに温かい社会づくり

- ・ 子どもの遊び場はぜひ整備してほしい。先日、高岡テクノドームの増床の報道があったが、室内でものづくり産業を体験できれば、父親が子どもを連れていきやすい。
- ・ 自分のところの幼稚園・認定こども園では、朝、父親が子どもを送ってくる割合が増えてきたと思う（約1/3）。一方で、迎えに来る父親は皆無。働き方改革を進めていく必要。
- ・ 園児を見ていると、遊び方や転び方が下手。運動能力が低下している。転んだとき手をつけずに歯をぶつける、手をつけば骨が折れるといった事例が多い。遊びの場がない弊害と感じる。特に、富山県は雨や雪の日が多く、室内で子どもが遊べる場所が少ない。公設の場所など、いつでもどこに行っても遊べる場所があって、父親と思いっきり遊べる地域環境づくりが大事。
- ・ 祖父母世代から、平日子育て支援センターなど遊ばせる場所はあるが、土日に子どもを連れて遊びに行ける室内施設は、こどもみらい館しかないと言われる。高岡テクノドームにはぜひ遊び場を整備してほしい。ショッピングセンターのキッズコーナーにはたくさんの子どもが、大きな音の中で遊んでいる。その周りを親や祖父母が見ている。この状況には疑問を感じる。県内に子どもたちが室内でのびのび遊べる遊び場が、等間隔であるとよい。
- ・ 男性トイレにベビーチェアやオムツ替えシートがあると、子どもの頃からのよい啓発になり、環境改善になる。